

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

The Society of Japanese Women Scientists



No.134 2024.3

I. 会長挨拶

「新春のご挨拶」

2024年、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。そうはいながらも元旦早々、能登半島沖は大きな地震に見舞われました。正月を家族や親戚、懐かしい友人らと過ごしていたであろう場所が、一瞬のうちに変わり果ててしまったことを想像すると心が痛みます。能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた皆様には心よりお見舞いを申し上げます。1日も早く普段の日常を取り戻されるよう祈念致します。

私自身は1978年の宮城県沖地震と2011年の東日本大震災を仙台で体験し、29年前の1995年に発生した阪神・淡路大震災の時は奈良におりました。特に、宮城県沖地震は30年～40年のサイクルと言われており、残りの生涯においてもあと1度か2度は大震災に見舞われるものと覚悟しております。東日本大震災の際は、家族、特にまだ小さかった子供たちを守るのに精一杯で、研究活動もしばらくまならぬ生活でした。研究職というのは世の中が平穏であって初めて営めるものなのだと改めて気づかされ、日常の有難さを痛感したのです。大震災は起こっては欲しくはありませんが、生きている地球上に暮らしている限りは避けられないことでもあります。今後大きな被害に遭わなくて済むよう、科学の知識や技術の進化が、課題を解決して欲しいと願います。

さて、日本女性科学者の会(SJWS)は2024年4月

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 梅津 理恵

で創立66周年を迎えます。昨年の5月の総会にて会長に就任して以来、理事会の開催、学協会連絡会シンポジウムへの参加、例会の開催などの定例行事に加え、会長企画（「創発的研究支援事業」SJWS版説明会ならびに推敲支援）を開催いたしました。このような企画を通して、若い女性研究者の活躍を少しでも後押し出来たら、と願っております。一昨年に刷新したホームページでは「若手」向けのページを新たに設け、学生会員等による活動の可視化、ネットワーク構築の推進を目指した取り組みも進めてきております。今後、さらに充実させて参りたいと考えております。



1月21日(日)には、東海ブロック主催による新春シンポジウムが「大学のダイバーシティ推進について考える」のテーマのもと岐阜大学医学部記念館にて開催されました。ご講演頂いた中野裕美先生、東村博子先生、大藪千穂先生に心より感謝申し上げます。また、素晴らしい会を企画して頂いた東海ブロックの理事の皆様にも感謝いたします。

以上、会員の皆様にとって実りある活動を今後とも進めて参りたいと思います。引き続き、SJWSの活動にご理解・ご協力賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

理事監事名簿

【理事】小川 美香子、樋田 京子、山田 恵子、安藤 恵子、梅津 理恵、森 義仁、板倉 恵子、上妻 馨梨、後藤 典子、武井 史恵、柳田 保子、山本 眞由美、小山 真紀、沼野 利佳、川内 敬子、井上 幸代、ヴィレヌーヴ 真澄美、篠原 美都、山本 真紀、福原 正代、原嶋 奈々江

【監事】小川 由起子、近藤 科江

【顧問】大野 茂男

目次

I. 会長挨拶	1
II. 前会長挨拶	2
III. 2023年度 SJWS例会報告	3
IV. 2023年度 SJWS新春シンポジウム報告	4
V. 計報	8
VI. 2023年度 寄付金の報告	8

SJWS体操で「日本的靈性」を身につけ、文理融合の基盤科学創成を！

SJWS 第10代前会長 跡見 順子

こんにちは。SJWS前会長の跡見順子です。会員の皆さま、お元気でいらっしゃいますか。ようやくさまざまなイベントが対面開催にもどり、梅津新会長のもと、SJWSの活動が活発に行われている様子を、梅津先生がご尽力されたりニューアルHPでも拝見して、大変嬉しく思っております。昨年5月の総会に続き、12月は関東ブロック主催の例会、本年1月には東海ブロック主催の新春シンポジウム、そして東北ブロックの活動報告書発刊と、コロナで低迷しかけた会員同士のコミュニケーションが復活しました。例会は私の母校であるお茶大で森関東ブロック長によって、和やかに開催され、女性科学者の集いといえば、教育・研究の話をしましょう！ということでポスターを前に活発な議論が行われました。農工大から帝京大先端総合研究機構に移動した私の研究室からは、身心一体科学教育について、研究室の社会人博士の方が参加し、教育の勉強会を立ち上げてくださっている山本新理事ともディスカッションできて大変有意義な時間でした。そうそう、理事の娘さんである高校生のポスター発表もありましたが、変革の時代だからこそ、ぜひとも研究者になって日本と世界の平和に貢献していただきたいと感じました。



ところで、会員の皆さまは、News132号に掲載させていただいたSJWS体操を試していただけたでしょうか。百年前、平塚らいてうは座禅で自己克己し続け、女性たちに勇気を与えました。鈴木大拙著『日本的靈性』に大地性が謡われています。「大地はどうしても母である。愛の大地である。これほど具体的なものはない。宗教（心身一体的な行動：筆者解釈）は実にこの具体的なものからでないと発生しない。」「人間は大地において自然と人間との交錯を経験する。」身体も細胞も大地（支持基底面であり接着基盤）である力学場で張力発揮の支点をつくり、内実構造を働かせます。可視化技術はわたしたち人間システムのリアルな存在を見せてくれます。赤血球・神経細胞も含めたすべての細胞は、ピエゾと名付けられたセンサー（チャネルタンパク質）を発現しています。身体の姿勢も動きも振動や血液の流れなどのメカニカルストレスをわたしたちの細胞たちは敏感に感じて応答していることがわかってきました。SJWS前事務局を預かっていた清水美穂前理事といっしょに続いている農工大工学部応用化学のソフトマテリアルの授業受講者は、SJWS体操3週間による便秘・腰痛・こころの不安定性改善、疲労軽減などの身体の変化のみならず、ヨット操縦やアメフト競技や乗馬能力の向上についても映像観察や数式を駆使して報告してくれました。

日本列島の地域性と歴史とは切り離すことができません。国際社会における現実の問題解決の方法は、地域性ローカルとグローバル化をどうつなぐか、ではないでしょうか。その答えは、わたしたち動く身体を環境として生きる細胞戦略にヒントがみつかることができます。多細胞生物をつくる一個の細胞でさえ、異なるシステムの共生で能力を向上してきました。

力学的ホメオスタシス維持能力を向上させる運動は、細胞の時空間的制御に携わる細胞骨格タンパク質システムと、その動的維持のために働くシャペロンタンパク質を自分で誘導することができます。ミクロとマクロそれぞれの、時空間の特異性を知り生かし、つなげていく。人間は適応進化する世界の構築に関わる能力を自ら育むことができるのです。昔の文理を分けず、心身一体化動作を要求する量の上で行われていた寺子屋教育のコアを内包するSJWS体操は、120年間現役で生きるロールモデルを提起するとともに、本年1月1日の北陸地震に続いて予想される災害時において、いのちを守るとっさの身体所作を身につけることができます。胆力が養成され安全かつ俊敏に動ける心身の育成を約束します。個人の自主的な行動が広がる先に世界平和への方策がみえてくるのではないのでしょうか。

安全保障や日本の基幹産業である自動車の生産に必要なチップの自国での開発は国の存続に必須です。私もいろいろな媒体からの情報を取りいれて、物事を自分で判断するようにしています。

日本女性科学者の会 例会が、関東ブロックの森義仁理事により、2023年12月9日(土)にお茶の水女子大学国際交流プラザ多目的ホールにて、完全対面にて開催されました。参加者全員による自己紹介を含めたフラッシュトークの後、お茶とお菓子片手に、15題ほどのポスターの研究内容や近状を含め語りました。会場にいらした理事のお嬢様の研究内容のポスターや、現在携わっておられるプロジェクトの成果など発表内容も多岐の分野にわたり、貴重な非常に濃密な交流の場でした。

例会プログラム

- 14:00～14:05 開会の挨拶 梅津 理恵 会長
- 14:05～14:30 参加者フラッシュトーク
- 14:30～15:55 ポスター発表と交流（ティータイムと共に）
- 15:55～16:00 閉会の挨拶 梅津 理恵 会長

関東ブロック長 森 義仁 理事

2023年12月9日の午後、銀杏並木が黄色に輝くお茶の水女子大学交流施設の一つ、国際交流留学生プラザの2階多目的ホールにおいて、2023度のSJWS例会が開催されました。オンラインの無い数年ぶりの交流会の一つになりました。関東ブロックはお世話係でしたが、東北・東海・関西中四国・九州からも集まって下さいました。関わったみなさんと一緒に作り上げている時間という気分で過ごすことができました。長いオンライン時代に何度も会議をご一緒させて頂いていましたから、今回、初めて直接お会いしことが分からないほどでした。人数が20名弱でしたから、名札を用意せず、お一人お一人から自己紹介をお聞きする時間がありました。ポスターをご持参くださった方から、ご研究やご関心についてのお話を聞くことができました。会は午後2時から4時までを予定していましたが、延長して5時までの貴重な時間を持つことができました。時間は午後のお茶の時間ですから、紅茶やコーヒーに甘いお菓子を頂きながらの交流となりました。学術的な会ですが、人の集まる場所として、飲食可能な場所をぜひ維持したいです。お集まりのみなさんの専門は多様でしたが、境界を越えての意見交換の場所となりました。広い研究分野から女性研究者が集まる場所には、男女共同参画学協会連絡会や女子中高生夏の学校があります。しかし、そこでは本来の目的がありますから、領域を越えての研究の会話は決して盛り上がるわけにはいきません。今回のような機会に出会うと、SJWSの交流会の持つ特筆すべき特徴が改めて認識できます。研究分野が多様であると、専門的に「深い」議論することができないかも知れません。しかし、その一方でより深い議論をするためには「広い」議論が必要と考えることもできます。できるならどちらも大切にしたいところです。この永遠の課題は教科書世界でも同じようです。現代の中学校理科の教科書の単元が物化生地に沿って構成されています。しかし、今から70年ほど前、日本が管理下のころの理科の教科書は以下のような具合でした。生活には衣食住が必要です。衣は繊維からできています。その繊維は綿からできています。その綿はセルロースからできています。つまり各論が衣食住の幹から枝分かれのように登場していました。国立附属学校関係者にお聞きすると、教育の世界では、各論か全体かは、時と共に行き来しているようです。研究者にしてみますと、深い各論を、全体を視野に入れながら語ることができるのはSJWSの役割なのかもしれません。





Ⅳ. 2023 年度 SJWS 新春シンポジウム報告

日本女性科学者の会 新春シンポジウムが、2024年1月21日(日) 14:00から東海ブロックの山本眞由美理事らにより、岐阜大学医学部記念会館にて、対面とオンラインとのハイブリット形式で開催されました。ご講演者には東海ブロックの大学から、ダイバーシティにおけるご高名な先生方に御登壇いただき、参加者一同、さらなる決意を新たにいたしました。

東海ブロック長 山本 眞由美 理事

近年、我々、女性科学者を取り巻く“社会の多様性推進の取り組み”は大きな変化を遂げています。本会会員の多くが所属する大学・研究所や学協会においても、男女共同参画、あるいはダイバーシティ推進の部署や委員会が立ち上がっています。

そこで、令和6年新春シンポジウム企画運営担当の東海ブロックは、この10年余の大学における“多様性推進の取り組み”の実際や成果を知りたいと「大学のダイバーシティ推進について考える」をテーマとしました。東海ブロックの三大学、豊橋技術科学大学副学長（ダイバーシティ担当）の中野裕美先生、名古屋大学副総長（多様性・男女共同参画担当）の東村博子先生、岐阜大学副学長（多様性・人権・図書館担当）で男女共同参画推進室長の大藪千穂先生から、各大学のダイバーシティ取り組みの変遷、成果などの詳細を講演いただきました。その後、東海ブロックの沼野利佳理事（豊橋技術科学大学教授）と小山真紀（岐阜大学准教授）がファシリテーターとして加わり、総合討論を展開しました。女性教員比率を上げる努力や工夫について、アンコンシャスバイアスに気づく方法、アフーマティブアクションに対する逆差別批判への対応の仕方、女性のライフイベントにおける評価の仕方、など、討論は多岐に渡りました。ついには、女性科学者だけの課題ではなく、近年の博士課程進学率低下、任期付き雇用制度のもたらす負の側面、研究者にとってのロールモデル不在など、我が国が抱える科学研究分野における構造的問題にまで広がりました。

最後、岐阜大学の王副学長（企画・研究・財務・産学連携担当）よりの挨拶では、ものづくりの盛んな中部こそ現場に女性が入って力を送り込んでほしい、女性研究者からの発信強化を期待している、DEIBの考え方でジェンダーギャップを取り除いてほしい、とSJWSにエールをいただきました。

日本女性科学者の会 令和6年新春シンポジウム



大学のダイバーシティ 推進について考える

令和6年1月21日(日) 14:00~17:00
(13:30~受付開始) (会員へは Zoom 配信有)

岐阜大学 医学部記念会館
(裏面map参照)

入場無料

主催：(社)日本女性科学者の会



共催：岐阜大学男女共同参画推進室

名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター
豊橋技術科学大学ダイバーシティ推進センター



プログラム：

進行：東海ブロック長 山本真由美 (岐阜大学 教授)

14:00~ 開会のあいさつ

日本女性科学者の会会長 梅津理恵 (東北大学 教授)

14:05~15:20 基調講演

シンポジスト1：中野裕美 (豊橋技術科学大学 副学長・教授)

「ジェンダー平等社会に向けて ~ダイバーシティと工学の視点をもった人材育成とジェンダー・イノベーション研究~」

シンポジスト2：東村博子 (名古屋大学 副総長・教授)

「大学の活性化戦略としてのDEIの推進：名古屋大学の女性活躍促進の取組紹介を含めて」

シンポジスト3：大藪千穂 (岐阜大学 副学長・教授)

「機構DEIB宣言 ~岐阜大学も走ってます!」

15:20~16:30 シンポジストと東海ブロック理事による総合討論

中野裕美 (豊橋技術科学大学 副学長・教授)

東村博子 (名古屋大学 副総長・教授)

大藪千穂 (岐阜大学 副学長・教授)

沼野利佳 (豊橋技術科学大学・教授) 東海ブロック理事

小山真紀 (岐阜大学・准教授) 東海ブロック理事

16:25~ 閉会あいさつ

岐阜大学 副学長 (企画・研究・財務・産学連携担当)・教授 王志刚

16:30~17:00 交流会



梅津理恵氏



中野裕美氏



東村博子氏



大藪千穂氏



王志刚氏



東海国立
大学機構

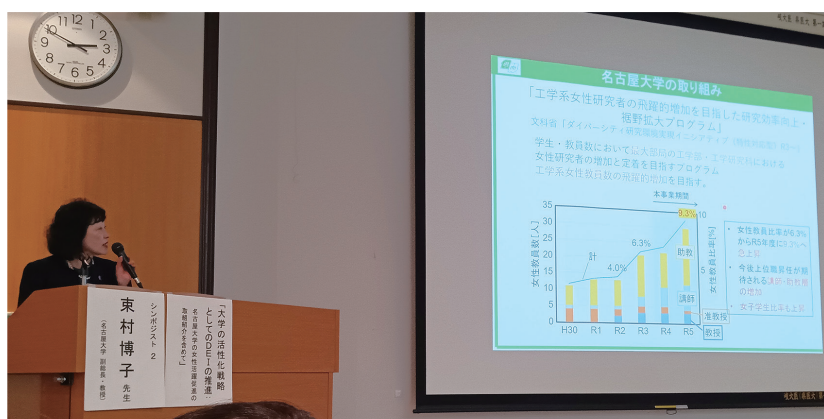


岐阜大学





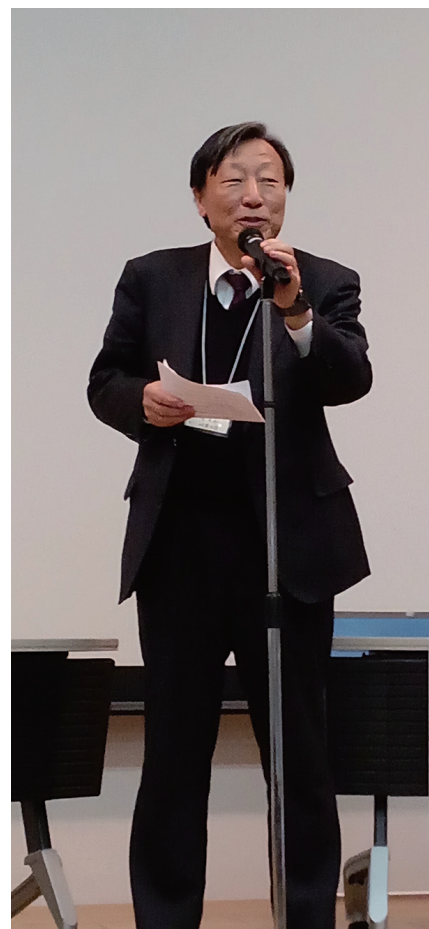
中村 裕美 先生（豊橋技術科学大学 副学長・教授）



東村 博子 先生（名古屋大学 副総長・教授）



大藪 千穂 先生（岐阜大学 副学長・教授）



王 志剛 先生（岐阜大学 副学長）



総合討論



シンポジウム集合写真



懇談会集合写真

編 集：沼野利佳・小川美香子・篠原 美都

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1

東北大学 金属材料研究所附属新素材共同研究開発センター

TEL/FAX 042-388-7539 E-mail : sjws-office@sjws.info

丸岡 賢 先生

丸岡先生は、日本の科学技術の発展に多大なる貢献を果たされ2017年第22回功労賞を御受賞されました。2014年に本会が一般社団法人へ移行した際には、定款の作成や法人登記など全面的なご支援を賜り、顧問として長年にわたり、本会の法務及び財務に関わる部分は言うまでもなく、本会の発展のために、多大なご支援をいただいております。

2023年8月5日に御永眠されました。これまでの先生のご尽力へ深く感謝と共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

大坪 久子 先生

大坪先生は、日本女性科学者の会会員で女性科学者の活動に貢献され、2013年に第18回功労賞を受賞されました。男女共同参画学協会連絡会では第4期副委員長、第7、8期では提言委員会委員長を務められ、アンコンシャスバイアスについても、早くから注目されていました。

2023年7月30日に御永眠されました。御冥福を心よりお祈りするとともに、本会会員一同、今後も先生のご活動を引き継いでいければと思います。

赤松 良子 先生

赤松先生は、日本ユニセフ協会会長をお勤めになり、国際的にも活躍され、緒方貞子氏と並ぶ世界的な日本女性リーダーでした。

労働省の婦人局長として、1986年に施行された男女雇用機会均等法の成立に尽力し、「均等法の母」と呼ばれてきました。2012年には市民団体「クォータ制を推進する会」を立ち上げて代表に就かれ、一貫して理系の重要性を説かれ、女性団体の中から選ばれた8団体の中で唯一の理系団体として本会が参画することになりました。

2024年2月6日に御永眠されました。これまでの先生のご支援とご指導への感謝と共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

VI. 2023 年度 寄付金の報告

日本女性研究者の会に、2022年度の2月から2023年度の1月末の時点で、皆さまからの寄附金について報告します。皆様の深いご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

ご芳名（アイウエオ順）とメッセージ

大谷 直子様「ますますのご活躍を祈念しています」

荒谷 美智様「日本の科学者、とくに女性科学者が一人でも多くなることを願っております」

小川 由起子様「みんなでがんばりましょう」

ご芳名（アイウエオ順）

大倉 多美子様、功刀 由紀子様、小林 祥子様、定本 久世様、志村 伊津子様、田崎 和江様、田代 田鶴子様、友村 美根子様、中嶋 理帆様、宮城 妙子様、山田 恵子様

尚、記載不可の方のお名前は掲載しておりません。